◉今月の焦点１

つながりが育（はぐく）む大切な心

子どもの貧困、児童虐待、いじめ問題、不登校など、子どもを取り巻く社会問題の報道が後を絶ちません。急速な社会的変化が地域や家族、親子関係にも影響しています。そんな予測困難な時代を生き抜く子どもたちの「大切に育てたい心の育ち」について考えます。

問い合わせ　子ども子育て課・教育指導課

社会を生き抜く道徳や規範意識の基礎を培い学童期へ

大切な心を育むステップ

０歳～1歳半ごろ

基本的信頼感

自分がかけがえのない
大切な存在であることを感じること

生まれたばかりの赤ちゃんは、お腹がすいたことや、オムツが濡れて気持ち悪いことを〝泣く〟ことで親に伝えます。親は赤ちゃんを抱きあげ、「どうしたの？」と声をかけ、なぜ泣いているのだろうと考え、世話をします。このやり取りで親子の絆（きずな）を深めていくのです。自分の欲求や思いに心を寄せ、受け止めてもらう経験が大切にされる自分に対する信頼を育み、この「基本的信頼感」はその後の心の育ちの基盤となります。

子育てが難しくなってきている現代、親が不安や心配なことを身近な人に相談したり、様々な人のつながりの中で子育てすることが、子どもの心の育ちにとってとても大切になってきています。

大切な心を育む、人とのつながり・心を動かす実体験

●思いやりの気持ち

「あかちゃんにごはんあげてるねん」自分が大切にしてもらっていることを、お人形さんにしてあげています。

●異世代との交流

異世代交流は、お互いにとって大切な時間です。色々な人がいて、それぞれが支え合っているということを学ぶにはまず出会うことが大切です。

●大切にされる経験

できるだけ毎日同じ保育士にお世話をしてもらうことで、情緒が安定し、集団の中でも安心して過ごせるようになります。

１歳半～３歳ごろ

自立・自己コントロール

食事や排泄などの自立とともに
簡単なルールや、自分と他人との違いに気づくこと

赤ちゃんだった時に比べると、自分で移動することができ、食事や排泄など身の回りのことが少しずつできるなど自立してきます。また、大人の声掛けで気持ちを切り替えることもできるようになります。

この時期には、主体的に人や物に関わることが大切です。その実体験を通して、自分と他人との違いや、「順番」などの簡単な決まりやルールなどが分かっていきます。あわせて、しっかり自分の思いを表現するということも大切です。互いの思いがぶつかり合う経験を通して、相手にも思いや気持ちがあるということに気付いていきます。この時期は、まだまだ大人のあたたかい眼差しと、適切な援助が必要です。

大切な心を育む、人とのつながり・心を動かす実体験

●好奇心・探究心・意欲
保育士の見守りのもと、興味津々で豆の観察。友だちとのやりとりの中で、順番など大切なことを学んでいます。

●生き物の観察
飼育していた青虫がちょうちょになる瞬間に遭遇。生まれてきた時の感動や大切にお世話をする経験が、命の尊さを教えてくれます。

●異年齢との交流
お昼寝する小さい子の背中を軽くたたいてあげるトントン当番。大きい子は、思いやりの気持ちが、小さい子はあこがれの気持ちが育ちます。

３歳～６歳ごろ

自発性

見たい！知りたい！やりたい！
興味や関心を持ち積極的に関わろうとすること

日々の生活や散歩、遠足などの体験を通して、良いことや悪いことが分かり、交通ルールなどの社会の決まりを守ることの大切さが分かるようになります。

また、友だちと様々な体験を重ねる中で、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになります。さらに、異年齢交流や地域の様々な年代の人たちとのふれあいで、いたわりや思いやりの気持ちが育っていきます。

しかし、どの経験も受け身では、様々な力を獲得していくことができません。色々なことに興味を持ち、主体的に人や物に関わろうとする心をこの時期に育んでいかなければなりません。

大切な心を育む、人とのつながり・心を動かす実体験

●友だちと協力して取り組む活動
作品を作る行程では、自分の考えが通らなかったり、失敗したり…。その経験を通して、折り合いを付けたり、一緒に作ったという達成感を味わったりするのです。

●夢中になれる活動
好奇心を刺激するいろいろな活動。ワクワクしたり、ドキドキしたり、夢中になったり…。どれも大切な心の栄養です。

●ルールを守ることの大切さ
遠足などで、公共交通機関のマナーを知る機会を設けています。車での移動が多い昨今、貴重な体験です。

小中学校9年間を通して深める
よりよく生きるための学び

15の春に責任を持つ本市の先進的な取り組み

小中学校
心の教育

道徳教育はすべての教育活動の基盤です

人と自分が違うことによって思っていることが違うから、話し合いをする時、いろいろな意見やよりよい意見が出るから、自分と人は違っていいと思う。

自分の意見を聞いてくれなかった時があっても、まずは相手の意見を聞いてみようと思った。支え合うために、人のためになることをどんどん考えていこうと思った。

▲子どもの感想より▲

自分を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。

また、ふるさと学など本市独自の様々な取り組みにより、子どもたちに必要とされる「豊かな人間性」を育んでいます。

■育てたい心
- やさしい心とたくましさ
- 人のつながりや人を大切にする人権感覚の豊かさ
- ふるさとや地域を愛する心
- 規律ある心、社会に貢献する態度

▲「私たちの道徳」より

❶ふるさと学～ふるさとをみつめて～

地域の伝統や文化・歴史を語れる子どもたちを育てる、ふるさと学。特設時間を設けた授業に加え、ふるさと作文や、美しの里発見事業、年賀はがき絵コンクールなどの取り組みにより、自分の住む町を愛し、誇りを感じる子どもたちが増えています。
※地域のコミュニティ誌にもふるさと学について掲載されました。

▲文化財子ども解説員

❷コミュニティスクール～地域の人たちとのふれあい～

▲あまちゃんルーム

▲夏休み工作教室

▲ふれあいまつり

府内で本市だけが導入している学校運営協議会（コミュニティスクール）。地域の人たちの力で、多くの取り組みが行われています。
地域の人たちとのふれあいや体験は子どもたちの貴重な心の育ちの場となっています。

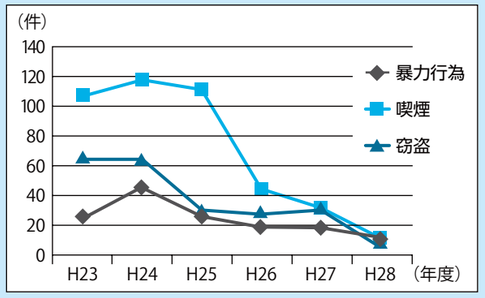
▲ほのぼの楽校

▲てくてくテーリング

取り組みの成果

子どもたちの育ちは、学校・地域・家庭によって支えられ、豊かな学びが実現しています。下表のとおり、子どもたちの問題行動が減少するなど、地域のみなさんの関わりが大きな成果を生んでいます。

■生徒・児童に関する問題行動件数の変化
（市内公立小中学校合計）



就学相談

来年４月に小中学校へ入学する子どもの保護者を対象に就学相談を行っています。「体力や健康面が不安」「集団にうまくなじめない」など、健康や生活の面で悩みなどを、気軽にご相談ください。
問 教育指導課

❸異年齢の交流

小中学校間の一貫性のあるきめ細かな指導により、小6から中1のギャップがなくなり、義務教育９年間の健やかな成長と確かな学力の向上につながっています。

❹いのち育む交流授業

乳幼児と保護者が学校を訪問し、児童・生徒と交流。赤ちゃんとふれあい、子育ての話を聞き、親への感謝の気持ちや命の重さを感じ、自己肯定感が育っています。